



令和3年度発達障害者地域支援者研修

発達障害のある方の就労支援

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
秋田障害者職業センター

秋田障害者職業センター紹介

設置主体 独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構

住 所 秋田市川尻若葉町4-48

支援範囲 秋田県全域をカバー

支援体制 ハローワーク、福祉・医療・教育等の支援機関と連携

職員構成 所長 障害者職業カウンセラー 5名

ジョブコーチ 4名 支援スタッフ 5名

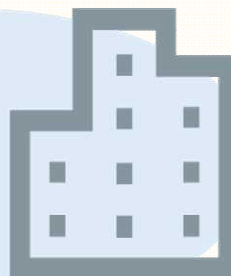


双方に支援



障害者

会 社



1

障害者雇用の基礎知識

2

発達障害者の就労支援のポイント

研修の内容

1 障害者雇用の基礎知識

1. 障害者雇用のキーワード

障害者雇用率

障害の種類

障害者手帳

職業準備性

2. 秋田障害者職業センターの 就労支援サービス

就労支援サービス

利用の流れ

事業主支援

2 発達障害者の就労支援のポイント

3. 就労支援の事例

事例 1 新卒者

事例 2 離職者

事例 3 在学学生

事例 4 企業

4. 支援する際のポイント

冰山モデル

1. 障害者雇用のキーワード

- 障害者雇用率
- 障害の種類
- 障害者手帳
- 職業準備性

障害者雇用率

- ・「障害者の雇用の促進等に関する法律」で規定
- ・常時雇用の労働者数に対して一定の割合で障害者を雇用することを義務付け

☒ 民間企業 2.3%

☒ 国・地方公共団体等 2.6%

☒ 都道府県等の教育委員会 2.5%

2.3%の障害者

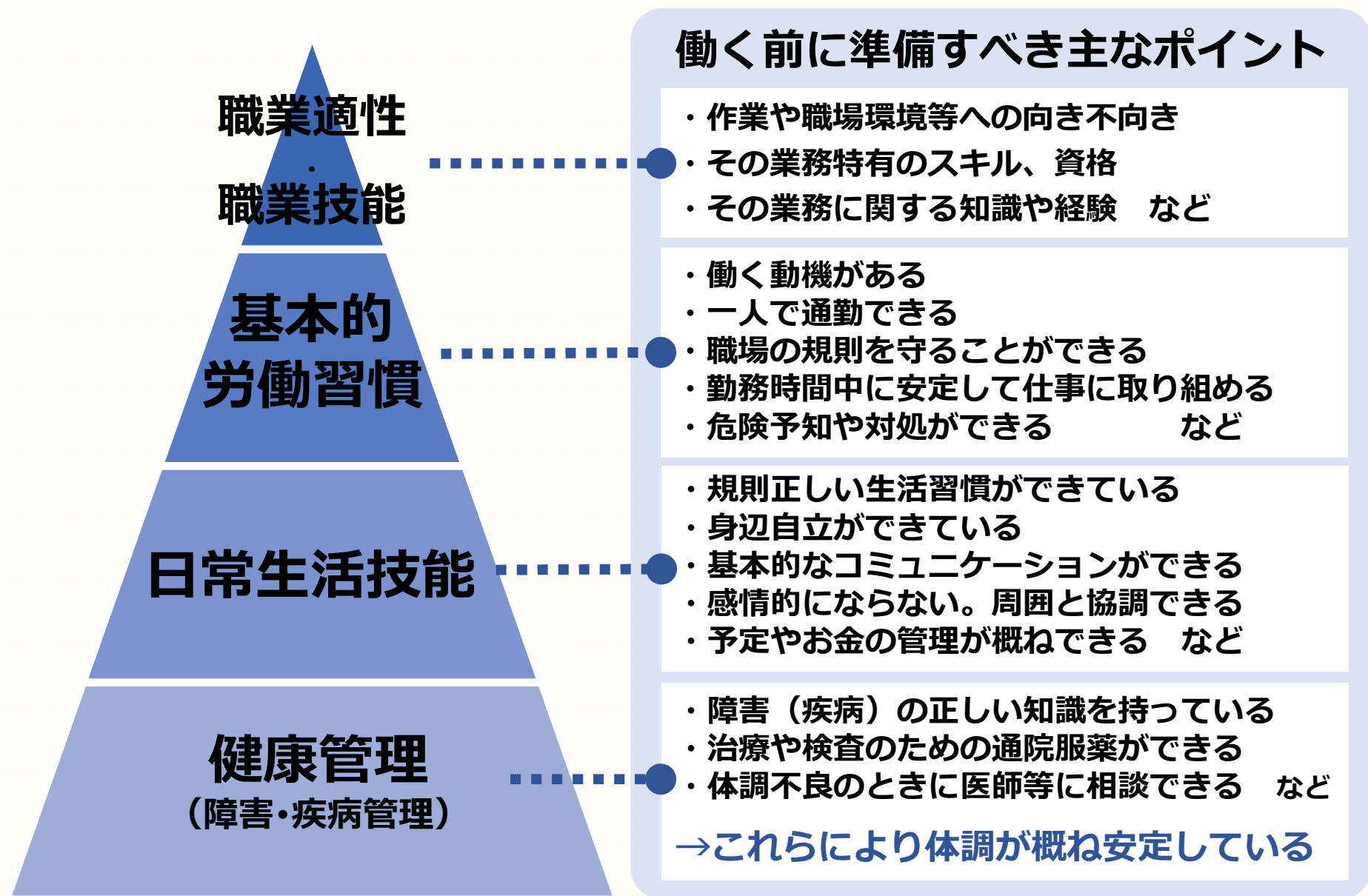
労働者数が43.5人の企業 = 障害者 1 名

※小数点以下は切り捨て

障害の種類と障害者手帳

種 別	障害の概要	障害者手帳（等級）
身体障害	・ 視覚、聴覚、言語、平衡機能 ・ 肢体不自由（四肢の麻痺、切断等） ・ 内部障害（腎・心・呼吸器、排泄機能、免疫機能等）	身体障害者手帳（1～7級） ※重度：1，2級及び3級を2以上重複 ※7級単一障害の場合、算定対象外
知的障害	・ 発達期(18歳まで)に何らかの原因で知的発達に遅れがあると診断された場合	療育手帳（秋田県：A/Bの2段階） ※重度：A
精神障害	・ 統合失調症 ・ そううつ病（気分障害） ・ てんかん など	精神障害者保健福祉手帳（1～3級） ※重度の取り扱いはない ※数字が小さい程、手厚い支援が必要
その他の障害	・ 発達障害 ・ 高次脳機能障害 など	【発達障害の場合】 ・ <u>精神障害者保健福祉手帳</u>の交付対象となる ・ ただし、症状等によっては交付されない場合もある ・ 症状等によっては<u>療育手帳</u>の交付となる場合もある

職業準備性ピラミッド（働くために必要な準備）



留意点

 **雇用率の算定対象は、障害者手帳を取得している人**

 **障害者手帳を取得するまでに数か月かかる場合もある**

※障害者雇用での就職活動を考えるときには、手帳取得までの期間も把握しておきましょう。

 **雇用率の算定対象は、勤務時間が週20時間以上**

※週20時間以上～週30時間未満は雇用率0.5カウント

週30時間以上：雇用率1カウント

障害等級によっても変わるため、詳しくは最寄りハローワークにご確認ください

 **職業準備性のゴールは一人ひとり異なる**

2. 秋田障害者職業センターの 就労支援サービス

- **就労支援サービス**
- **利用の流れ**
- **事業主支援**

秋田障害者職業センターの就労支援サービス

障害者向け	概 要
職業評価	課題点や方向性を考えるための支援
職業準備支援	就職準備のための通所支援
ジョブコーチ支援事業	職場定着のための人的支援
※リワーク支援	職場復帰のための支援

事業主・支援機関向け	概 要
事業主支援	障害者雇用に関する相談全般
関係機関への助言援助	障害者雇用に関する連携・研修等

職業評価とは

- ・ 就職活動がうまくいかない
- ・ 就職したけど、長く続かない
- ・ 自分にあった働き方がよくわからない
- ・ 自分のことをよく知って仕事をしたい
- ・ 自分に合った就職活動の方法を知りたい

- ・ できること
- ・ 苦手なこと
- ・ 準備すること
- ・ 協力を得ること
- ・ 必要な情報 など



職業評価

- ・ これまでの情報の整理
- ・ 必要な情報の収集
- ・ 今後の取り組みの提案



職業評価の内容

働くための準備状況

基本的労働習慣

日常生活技能

健康管理

働くことへの考え

就職活動の希望

悩みや心配

その他の情報

相談や各種検査の結果を4項目で整理

身体的側面

精神的側面

社会的側面

職業的側面



今後の就職活動の進め方の提案
職業リハビリテーション計画

職業評価の内容（参考例）

※実施内容は一人ひとりに合わせて変わります



面接による聞き取り



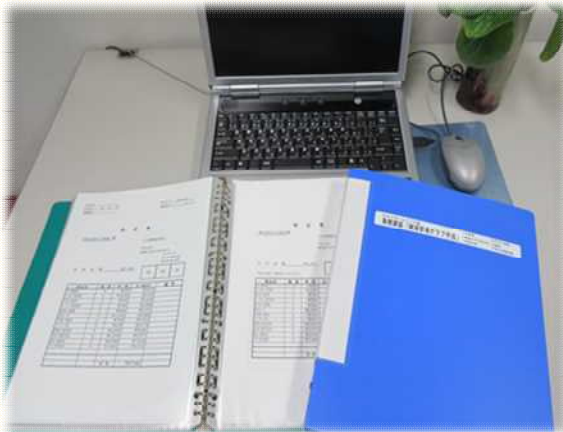
一般職業適性検査
(器具検査 1)



ワークサンプル法
(水道蛇口の組み立て)



各種検査・心理検査



ワークサンプル法
(OA作業)



ワークサンプル法
(ピッキング)

職業評価の留意点



職業評価は、ご本人の希望と納得が最も大切



職業評価は、適職診断ではありません

※「あなたに向いている仕事は○○です」と伝えるものではありません

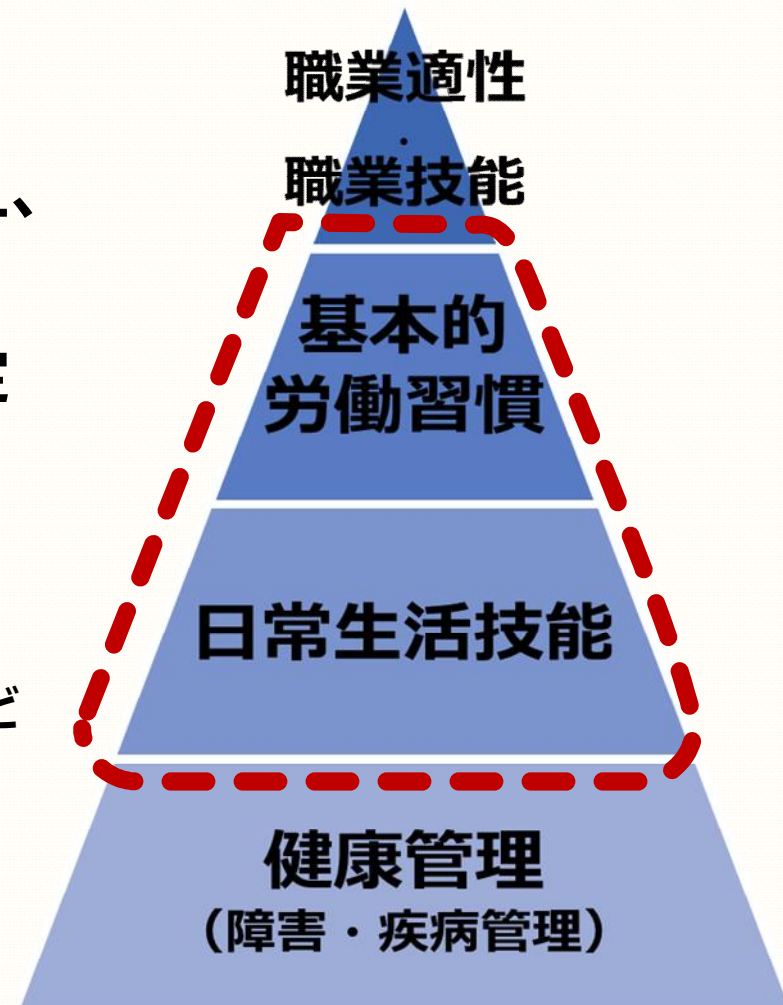


通院中の方は主治医の同意が必要

※就職活動に取り組むことに主治医が同意しているかを確認します
センターの利用を検討するときは主治医と相談の上でお申し込みください

職業準備支援とは

- ・ **目的** : 職業準備性を高める
自分について知る など
- ・ **選考** : 職業評価の結果を踏まえ、
所内選考を実施
- ・ **内容** : 個別カリキュラムの策定
- ・ **方法** : 職業センターへの通所
- ・ **受講期間** : 8～12週間程度
- ・ **終了後** : 職場見学、実習、面接 など



職業準備支援の受講対象者

- ・ 働いた経験がなくて不安がある
- ・ 就職活動の準備はどんなことをすれば？
- ・ 働くときに必要なことを学びたい
- ・ 自分のことを会社にどう伝えればいい？
- ・ 苦手なことを練習したい など

・ 改善に向けて、長期的な活動が必要な場合、
職業準備支援以外のサービスのご利用を
お勧めする場合があります



職業準備支援（支援の枠組み）

職業講座

- ・ 就職活動や仕事に必要な知識を学ぶ
- ・ 座学、意見交換、ロールプレイ など

作業

- ・ 作業上の課題や障害特性を確認する
- ・ 職業講座や個別相談で学んだ知識や対処方法等を作業場面で試す

個別相談

- ・ 日々の活動のふり返し
- ・ 課題整理、対処方法の検討
- ・ 就職活動の相談 等

【作業に関する留意点】

- ・ 作業の目的は仕事上の自分の特徴を知り、苦手なことへの対処や配慮を知ること
- ・ 職業訓練や技能習得が目的ではありません

職業準備支援のスケジュール（イメージ）

	月	火	水	木	金
9:30	朝 礼				
	講座・作業	講座・作業	講座・作業	講座・作業	講座・作業 個別相談
12:00	昼休み				
13:00	講座・作業	講座・作業	午後は 通所なし	講座・作業	講座・作業 個別相談
15:00	終 礼				

- ・ 土日祝、毎週水曜午後は休講。
- ・ GW、お盆、年末年始など、休講になる場合がある
- ・ 定期通院など、必要な予定がある場合は事前相談の上、休講できる
- ・ 受講期間やスケジュール等は受講者の状況に合わせて調整できる

職業準備支援の留意点



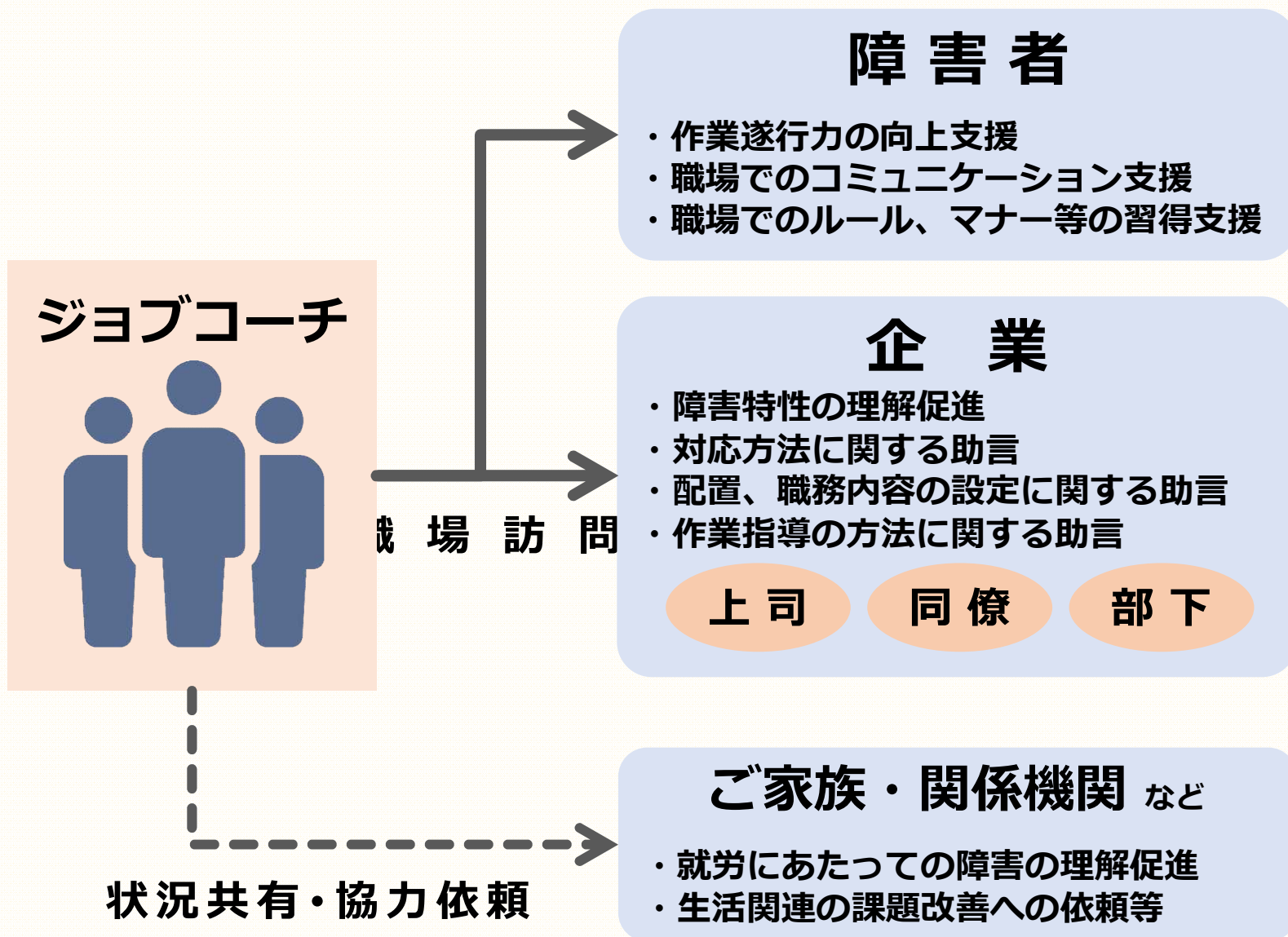
受講費は無料。交通費、昼食代は自己負担



遠方に在住の方には宿泊施設借上げ制度がある

※借上げ制度には条件があるため、事前に相談が必要です

ジョブコーチ支援とは



ジョブコーチ支援のゴール＝ナチュラルサポート

集中支援

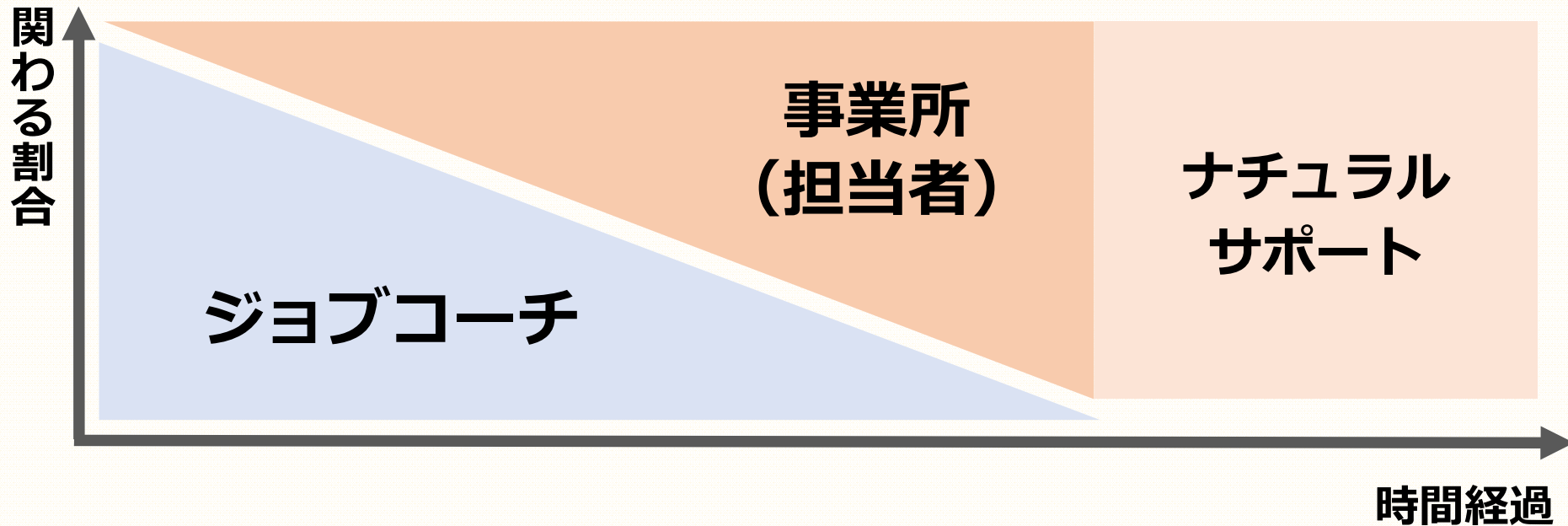
課題を分析し、
集中的に改善を図る
(週3～4日訪問)

移行支援

徐々に支援方法等を伝え、
支援の主体を職場に移行
(週1～2日訪問)

フォローアップ

関係機関への移行
(数週間～数ヶ月に一度訪問)



本人と職場の方が安心して働ける環境づくりを目指します

ジョブコーチ支援の留意点

- ☒ 利用は、本人と事業主の同意が必要
- ☒ 支援終了時に週20時間以上の勤務時間が目標
- ☒ ジョブコーチ支援（定着支援）は「準備」が大切

ジョブコーチ支援（定着支援）は「準備」が大切

【職場定着失敗の要因】

1. 伝えるべき情報が伝達されていない
2. 決めるべきことが決められないまま話が進んだ
3. 「長期的に働けるか？」という視点から判断していない

- ・ 職場に定着できるかは、採用までの準備状況に大きく影響を受けます
- ・ 準備が必要なのは障害者本人だけではありません
- ・ 支援者は本人、事業所が必要な準備を進めるように働きかけます
- ・ ジョブコーチ支援の利用をご検討の際は早めにご連絡ください

職業センターの利用の流れ

受付

説明会
(月2回)

個別相談

職業評価

- ・課題点、目標の整理
- ・自己理解のアドバイス
- ・支援内容の具体化
- ・支援機関との連携の明確化

など

職業リハビリテーション
計画の策定

- ・今後の活動の方向性の提案
- ・取り組み目標の提案
- ・職業センターサービスの利用可否や内容説明

など

職業相談

- ・問題状況の整理
- ・障害者雇用の情報提供
- ・支援機関の情報提供等

その他の就職準備
(相談終了)

- ・医療機関を受診する
- ・体調や生活リズムを整える
- ・他の就労支援機関を活用する など

職業センターの利用の流れ

就職・復職に
向けた支援

就職・復職

職場定着の
ための支援

職業準備支援

リワーク支援
(復職支援)

ジョブコーチ支援

事業主支援

福祉サービス施設での
就職準備

- ・ 就労移行支援事業所
- ・ 就労継続支援A事業所
- ・ 就労継続支援B事業所

事業主支援とは（障害者雇用に関する担当者の声）

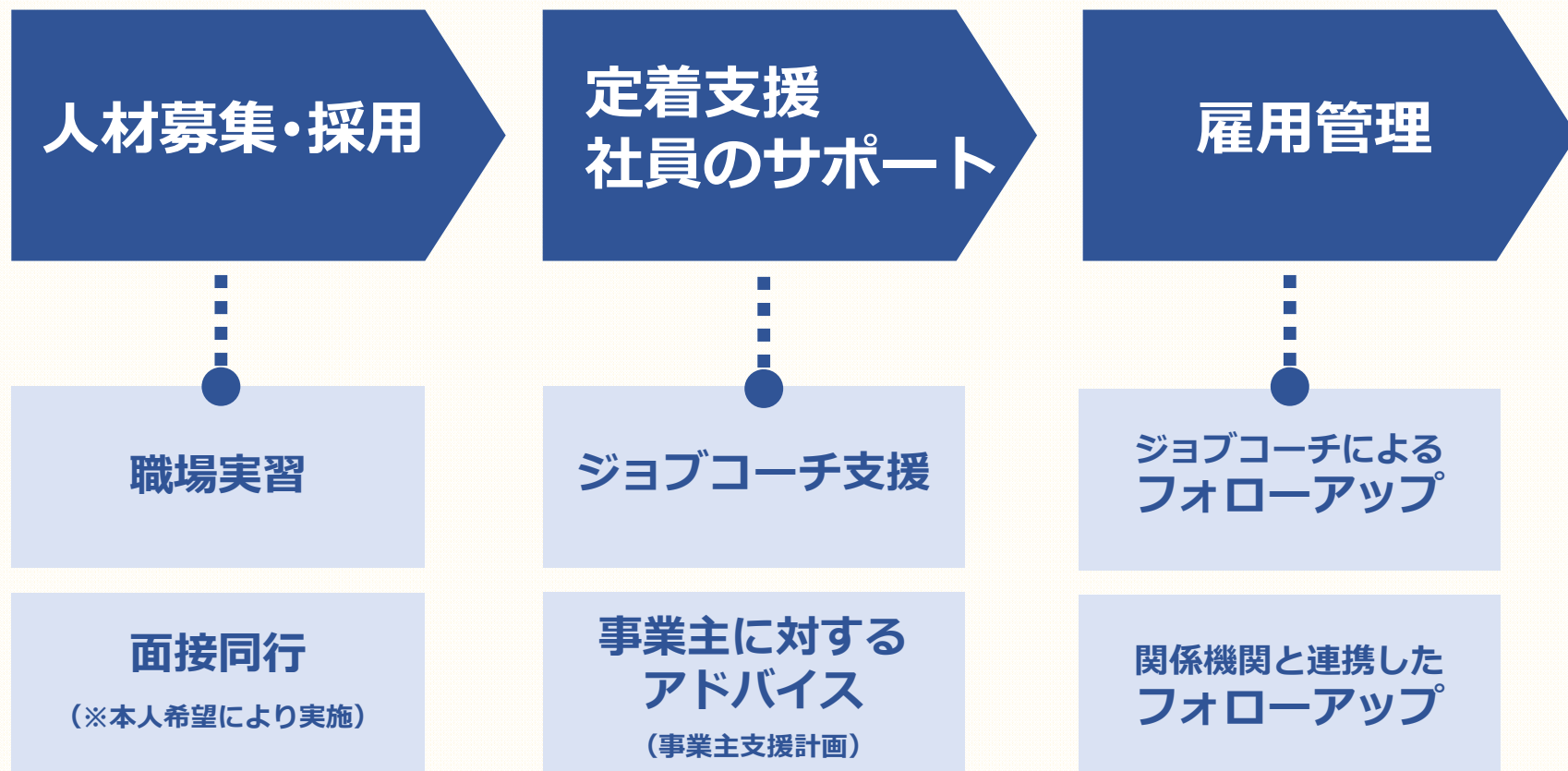
- ・ 障害者雇用を始めるには何から取り組めばいいの？
- ・ どんな仕事を任せられるの？
- ・ 自社に適した人材を探すにはどうしたらよいの？
- ・ 障害のある社員との関わり方や雇用管理の方法は？
- ・ 他社の障害者雇用の取り組みを知りたいときは？
- ・ 障害者雇用に対する社員の理解を得るにどうしたらよい？
- ・ 支援機関や支援制度の活用方法は？



採用までの流れと事業主支援



採用までの流れと事業主支援



職業センター利用に関する留意点

 **職業センターのサービスは無料です**

 **障害者手帳を持っていない方でも利用できます**

※ただし、体調不良等が続いており、治療が優先される段階の方については、ご相談の上でセンター利用について一旦保留にさせていただく場合があります。

 **公的機関、公務員の方は支援対象外となります**

※公的機関に対する定着支援についてはハローワークにご相談ください。

 **センターでの相談は職業選択や職業生活に関するものです**

※治療的カウンセリングや心理療法等をご希望の場合は、専門機関の利用をお願いします。

 **求職者の紹介は最寄りのハローワークにご相談ください**

3. 就労支援の事例

- 事例 1 新卒者
- 事例 2 離職者
- 事例 3 在学生
- 事例 4 企 業

※本事例は実際の事例に基づいていますが、個人情報部分は創作し、いくつかの事例を組み合わせた研修用の架空事例です

事例 1 新卒者ケース（就労支援機関の活用）

職業センターに相談に来たときの状況

- ・ 18歳（男性）
- ・ 県内の普通高校を卒業
- ・ 在学中から就職活動に取り組んだが採用されなかった
- ・ 知人の紹介でスーパーマーケットで働いたが、すぐ離職した
- ・ 心配した両親が、職業センターに相談に来た
- ・ 中学校まで、療育センターなどで相談していた
- ・ 発達障害の診断はあったが、障害者手帳はない
- ・ 最近は何もせず家で過ごしている。将来が心配

職業センターで相談したこと

- ・ 両親から小さい頃、学生時代の様子、現在の様子を聴き取った
その際、過去の支援機関の資料なども見ながら教えてもらった
- ・ 後日、本人にも職業センターに来てもらい、困りごとや希望などを
教えてもらった
- ・ 職業評価を実施して、これからの就職活動の進め方を考えた

事例 1 新卒者ケース（就労支援機関の活用）

わかったこと・働きかけたこと

- ・ 両親は「学校で問題はなかったから働けるだろう」と思っていた
- ・ 本人は、自分が働きたいのかよくわからない。「親が働きなさい」
- ・ 療育センターの記録や学校の通知表等を見ると多岐にわたる困りごと
- ・ 本人の了解のもと、親に職業評価に同席してもらい、本人の作業や理解力などを確認してもらった
- ・ 障害者雇用や障害者手帳、福祉サービスなどの情報を知らなかった

取り組みの結果

- ・ 両親は、本人の能力や理解力などについて改めて認識した
「まさか、こんなに苦手なことがあったとは…」
- ・ 本人は、職業評価でいろいろな作業ができて楽しかった
- ・ 仕事の準備（職業準備性）をしてから求人に応募することを提案
- ・ 生活リズムを整えたり、仕事を続ける体力づくりも必要だった
- ・ 障害者手帳や障害年金、就労系福祉サービス等の情報について情報を集めることも提案
- ・ 障害者就業・生活支援センターに登録。就労移行支援事業の利用へ

事例 2 離職者ケース（二次障害と自己理解）

職業センターに来たときの状況

- ・ 30歳代（男性）
- ・ 高校を卒業したあと、数社で勤務した経験がある
- ・ どの職場でもミスが出て、怒られることが続いた
- ・ 気分の落ち込みや不眠が続き、出勤できなくなった
- ・ メンタルクリニックに通院。適応障害との診断
- ・ 医師からは「発達障害の可能性はある」とも言われた
- ・ 退職して体調は良くなったが、今後の就職活動をどう進めれば？

職業センターで相談したこと

- ・ 仕事上の困りごととその要因、就職活動の方向性を考えるために職業評価の実施を提案
 - ・ これまでの職歴で困ったことの洗い出し
 - ・ 子どもの頃の様子（学校時代の困りごと等）の確認
 - ・ 医療機関からの情報
 - ・ 職業センターでの各種検査や聞き取り

事例2 離職者ケース（二次障害と自己理解）

わかったこと・気づいたこと

- ・ 職場で失敗するパターンは、似たものが多かった
- ・ 職業評価でも同じようなミスが出ていた
- ・ 学生の頃の出来事を振り返ると、働く前から困ることが多かった
- ・ 病院で発達障害の説明はなく、実は発達障害のことはよくわからない
- ・ 障害者雇用の仕組みや基本的な流れはわかった
- ・ これまで失敗が続いてきた理由が分かった気がする
- ・ もう少し自分のことをしっかり知ろうと思う

職業評価のあとで取り組んだこと

- ・ 主治医に再度発達障害のことについて詳しく聞いてみる
- ・ 障害者手帳が取れるのかどうかも相談する
- ・ 「ふきのとう秋田」に相談して、発達障害についてもう少し知りたい
- ・ 就労移行支援事業所に通って、働く準備をしていきたい
（働くには、まだ体調は万全ではない。前職からブランクがあるので心配）

事例 3 在学生ケース（社会資源をどう活用するか）

職業センターに相談に来たときの状況

- ・ 大学 4 年生（女性）
- ・ 学業や学生生活、アルバイトで失敗が続き、就職できるか不安
- ・ 小さい頃に医療機関へ発達相談はしていたが、診断はなかった
- ・ 小学校～高校は普通学校に通学
- ・ 自分なりに就職活動に取り組んでいたが、不採用が続いていた

これから取り組む必要があること

- ・ どんな失敗があったのか、困りごととは何かをはっきりさせる
- ・ できること、苦手なこと、自己対処等の本人情報を集める
- ・ 就職活動の進路を考えるために必要な情報を集める
- ・ 障害者雇用に関する情報を知る（障害者雇用を選ぶかどうかは別として）

事例3 在学生ケース（社会資源をどう活用するか）

相談や職業評価でわかったこと

- ・ 臨機応変な判断や対応は苦手
- ・ アルバイトでは、特に接客と仕事の手順を覚えることに困った
- ・ 感覚過敏や不器用さがある
- ・ やり方の決まったことはコツコツ取り組める
- ・ 大学の単位取得も思うように進んでいなかった（卒業できないかも！）

取り組みの結果

- ・ 医療機関を受診し、障害者手帳を取得（家族ともよく相談して決めた）
- ・ 大学の学生相談室に評価結果を伝え、学業面のサポート体制を整備
- ・ ハローワークで障害者求職者登録した
- ・ ハローワークと職業センターで連携して職場開拓した
- ・ 自宅学習期間に職業準備支援を受講し、講座と面接練習を行った
- ・ 希望条件に近い企業での職場見学、職場実習を実施
- ・ 障害者雇用として採用が決定した

事例 4 企業ケース（受入れ準備と定着支援）

職業センターに相談に来たときの状況

- ・ 秋田県外に本社がある300人以上の企業
- ・ 本社では障害者雇用に取り組んでいるが秋田店では未経験
- ・ これまで本社だけで障害者雇用に取り組んできたが、障害者雇用率の引き上げに伴い、各店舗でも障害者雇用をする方針が示された
- ・ 何から取り組めばよいかわからず、インターネットで障害者雇用を検索して「秋田障害者職業センター」を知って連絡した

秋田店担当者のニーズ

- ・ 障害者雇用をする際に、何から取り組めばよいかわからない
- ・ どこで働きたい障害者を探せばいいのかわからない
- ・ 障害について何も情報がない
- ・ 会社で何を準備すればいいのか知りたい

事例 4 企業ケース（受入れ準備と定着支援）

職業センターが提案したこと

- ・ 障害者雇用の実施に向けた関係者での会議を提案
- ・ 会社からの聴き取り（業務内容、希望人材、労働条件、職場環境等）
- ・ 業務内容や職場環境等から発達障害者の雇用について提案
- ・ ハローワーク等の関係機関担当者に連絡して、会社の求める条件に合う求職者がいないか探した
- ・ 管理職参加の「社員研修」を実施。テーマは発達障害と障害者雇用
- ・ より確実なマッチングを図るため会社説明会、職場実習の実施を提案

取り組みの結果

- ・ 段階的に進めたことで、会社内の障害者雇用に対する不安が減少
- ・ 現場レベルでは業務の洗い出し、マニュアル整備、担当者の選任等必要な準備に取り組めた
- ・ 発達障害者 1 名の雇用につながった。採用後はジョブコーチ支援を活用し、ナチュラルサポートの構築に取り組んだ

4. 支援する際のポイント

■ 氷山モデル

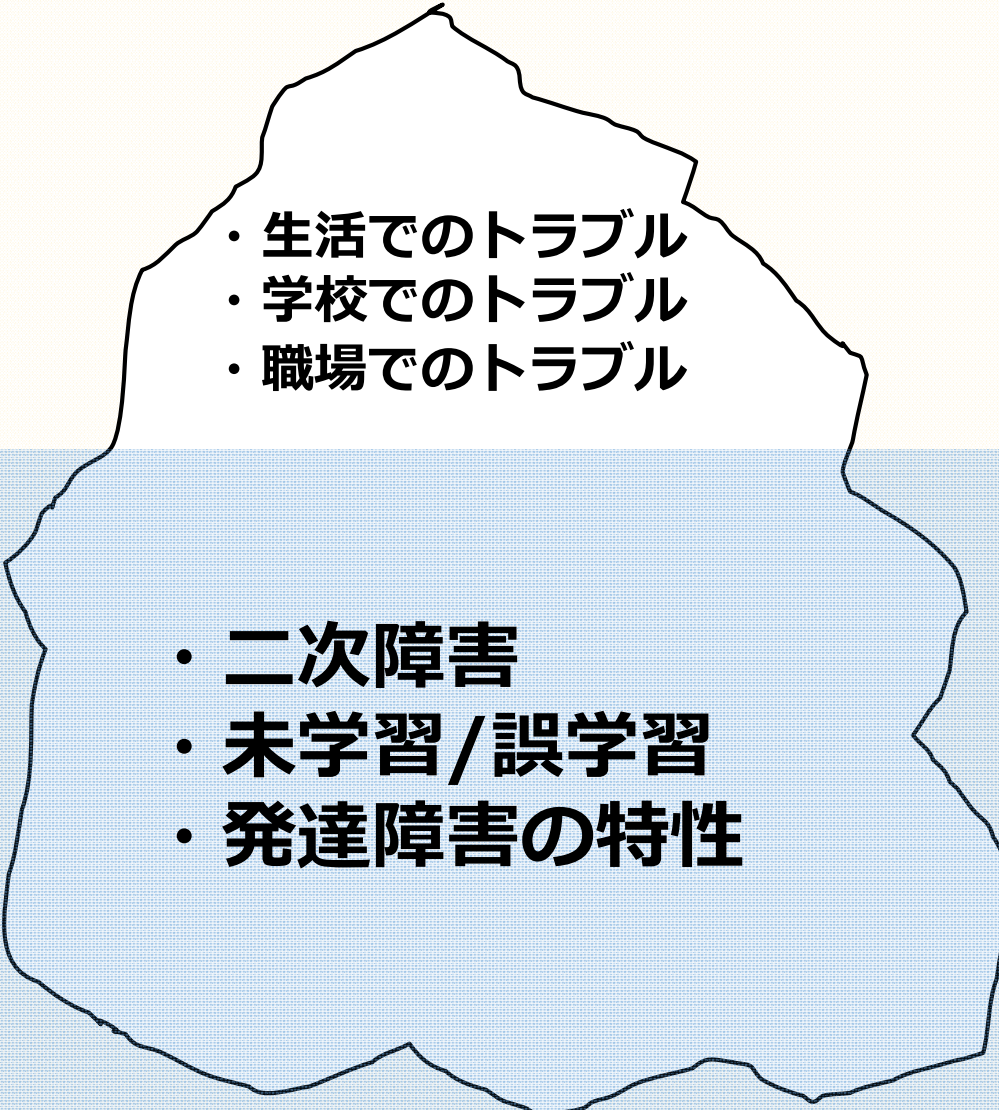
氷山＝個人

外から見える部分

見えない部分

海＝周囲の環境

冰山＝個人

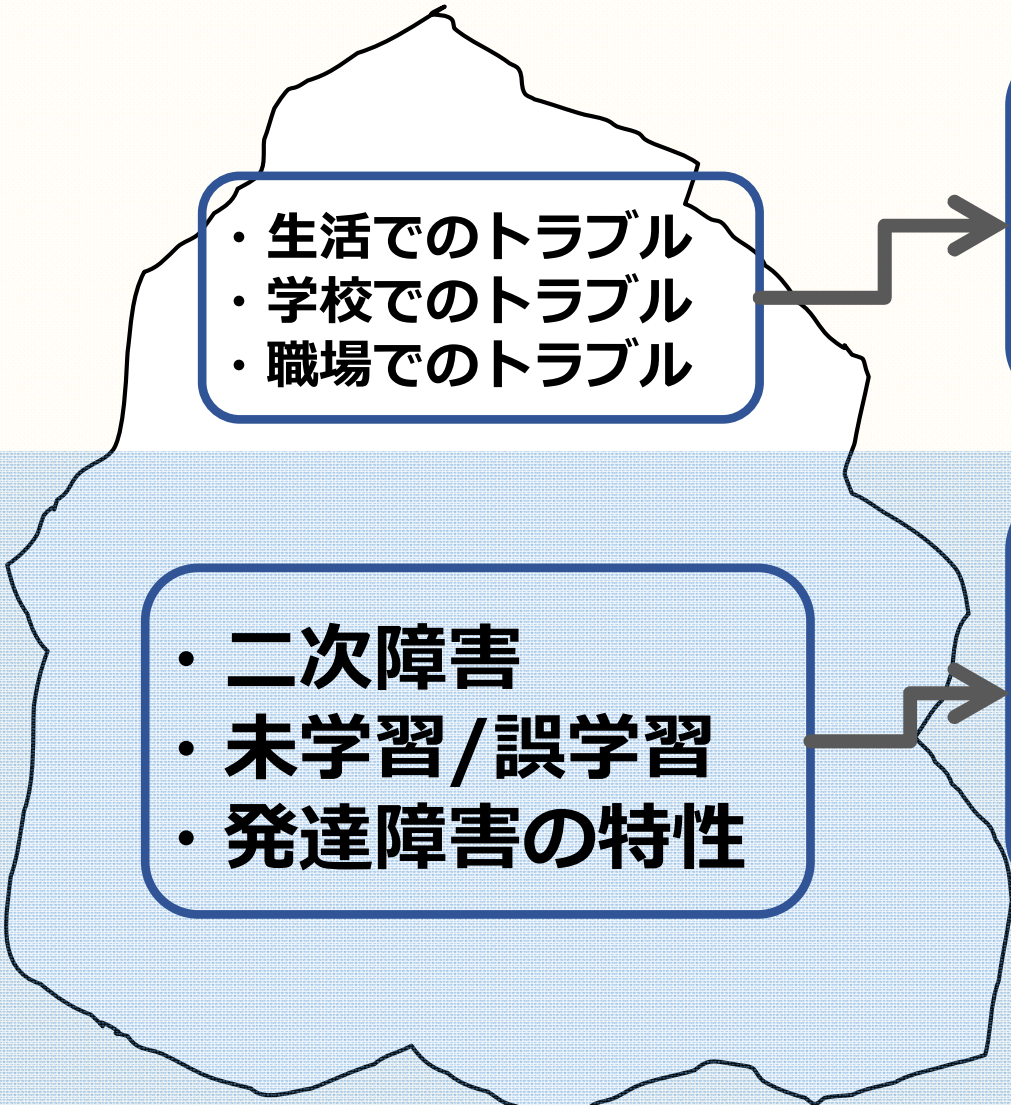
- 
- A diagram of an iceberg floating in water. The top part of the iceberg is white and contains a list of three items. The bottom part is submerged in a blue, textured water area and contains a list of three items. To the right of the submerged part, the text '海＝周囲の環境' is written.
- ・ 生活でのトラブル
 - ・ 学校でのトラブル
 - ・ 職場でのトラブル

- ・ 二次障害
- ・ 未学習/誤学習
- ・ 発達障害の特性

海＝周囲の環境

冰山モデルで捉える支援の3つのポイント

冰山＝個人

- 
- The diagram illustrates the 'Iceberg Model' of an individual. The visible tip of the iceberg, above the water line, contains a box with three items: '生活でのトラブル' (Trouble in life), '学校でのトラブル' (Trouble at school), and '職場でのトラブル' (Trouble at work). An arrow points from this box to a callout box labeled 'ポイント① 具体的に把握する' (Point 1: Understand specifically), which lists '映像的に現場を捉える' (Capture the scene visually) and '数の記録を取る' (Take numerical records). The submerged part of the iceberg, below the water line, contains a box with three items: '二次障害' (Secondary disability), '未学習/誤学習' (No learning/mislearning), and '発達障害の特性' (Characteristics of developmental disability). An arrow points from this box to a callout box labeled 'ポイント② 本人のことを詳しく知る' (Point 2: Know the person in detail), which lists '見える問題の背景を探る' (Explore the background of visible problems), '"決めつけ"に注意' (Be careful of 'preconceptions'), and '「発達障害だから～」' (Because of 'developmental disability'...). The water line is represented by a horizontal line across the middle of the iceberg.
- ・ 生活でのトラブル
 - ・ 学校でのトラブル
 - ・ 職場でのトラブル

ポイント①

具体的に把握する

- ・ 映像的に現場を捉える
- ・ 数の記録を取る

- ・ 二次障害
- ・ 未学習/誤学習
- ・ 発達障害の特性

ポイント②

本人のことを詳しく知る

- ・ 見える問題の背景を探る
- ・ "決めつけ"に注意
「発達障害だから～」

冰山モデルで捉える支援の3つのポイント

ポイント③

環境を詳しく知る（本人への影響を見つける）

- ・ どんなトラブルも環境の影響を受ける
- ・ 問題の「個人化」に注意する
問題の原因は個人の中にはない
- ・ 環境要素は物理要因だけではなく、人的要因も含む
- ・ 支援者も問題要因になる可能性があるということ

周囲の理解・配慮

海＝周囲の環境

まとめ

1 障害者雇用の基礎知識

1. 障害者雇用のキーワード

障害者雇用率

障害の種類

障害者手帳

職業準備性

2. 秋田障害者職業センターの 就労支援サービス

就労支援サービス

利用の流れ

事業主支援

2 発達障害者の就労支援のポイント

3. 就労支援の事例

事例 1 新卒者

事例 2 離職者

事例 3 在学学生

事例 4 企業

4. 支援する際のポイント

冰山モデル